

# 年頭のごあいさつ



一宮町長 玉川 孫一郎

新年明けましておめでとうございます。皆様には、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年、一宮町は温暖な気候、豊かな自然環境、交通アクセスの良さが評価され、人口増加率は、県内町村で3位、住宅地の地価上昇率は、全国3位となりました。

一層住みやすい魅力的な町を目指して、新しいまちづくりのプロジェクトが今年から始動します。

お年寄りから子供まで、誰もが自由に利用できる巡回バスや乗り合いタクシーなどの地域公共交通機関の実現を目指して協議会が組織され、早ければ来年にも、国の補助金を活用して、試行運行が始まります。

高齢者や身障者にもやさしいバリアフリーのまちづくりや遊休農地を活用する市民農園も町民の皆様とともに着実に進めてまいります。

厳しい財政状況の中でこれらの課題に取り組んでいくために、12課を8課に統廃合する行財政改革をおこないます。

情報公開と住民参加をさらに徹底して、住民と協働のまちづくりを進めてまいりますので、町民の皆様の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

結びに、皆様方のご多幸とご活躍を心からお祈り申し上げます。新年のあいさつといたします。



一宮町議会議員 井桁 太喜一郎

新年あけましておめでとうございます。皆様には輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年、米国のサブプライムローンに端を発した世界金融危機は、日本にも多大な影響を与えました。輸出を牽引とした日本のこれまでの景気拡大は、戦後最長のものでしたが、終止符を打たれることになりました。それによって起こった雇用問題は、人口減少、高齢化時代を迎え、もつともがらんどころである現役世代を直撃し、社会全体に閉塞感が漂っていると感じます。

その一方で、北京オリンピックでの日本選手団の活躍や、日本人4名がノーベル賞を受賞するなど、日本人の世界での活躍が目立った年でもありました。スポーツも、学問も、一番大切なのは努力することであると思います。かつてよく言われた日本人の勤勉さを我々は今一度噛み締め、この世界的な不景気を打開する先導的役割を果たしていくことは、日本の使命だと思えます。

さて、一宮町におきましては、昨年、長生郡市の合併協議会が解散となりました。今後は一宮町独自で、厳しい状況の中、実施計画を進めていかなければなりません。東浪見区画整理組合の解決など、多くの難題があります。

また、新町長の公約であります、一宮駅東口のバリアフリー化、町民の足となり町を巡回する福祉バス、一宮町を活性化するための道の駅など、議員一同、慎重に審議をし、一宮町の底力が十分に発揮できる、明るい豊かな町づくりのため、より一層努力してまいりますので、町民の皆様には、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに本年が皆様におかれまして、より良い年になりますようご祈念申し上げます。新年の挨拶と致します。